

土木学会 コンクリート委員会

平成18年度 第3回規準関連小委員会 議事録(案)

1. 日 時：平成18年9月27日(水) 14:00～17:00
2. 場 所：土木学会 A会議室
3. 出席者：橋本親典，鎌田敏郎，伊藤康司，上野敦，江口和雄，黒井登起雄，酒井修平，新藤竹文，椿龍哉，寺村悟，原田修輔，久田真，三谷芳弘，横関康祐，岩波光保(記録) ※ 敬称略
4. 配布資料
 - 3-0 平成18年度第3回議事次第
 - 3-1 平成18年度第2回議事録(案)
 - 3-2-1 目次新旧対応表 セメント・骨材・混和材料WG
 - 3-2-2 土木学会規準高炉スラグ混合細骨材の高炉スラグ細骨材混合率試験方法(JSCE-C504-1993)の使用頻度に関する調査
 - 3-2-3 コンクリートの乾燥湿潤試験方法(案)
 - 3-2-4 新旧対応表 高炉スラグ微粉末の混入率および置換率試験方法
 - 3-3 目次新旧対応表 鋼材・補強材WG
 - 3-4-1 目次新旧対応表 フレッシュコンクリートWG
 - 3-4-2 新旧対応表 プレパックドコンクリートの注入モルタルの流動性試験方法(P漏斗による方法)ほか
 - 3-5-1 硬化コンクリートWG 活動報告
 - 3-5-2 目次新旧対応表 硬化コンクリートWG
 - 3-5-3 新旧対応表 プレパックドコンクリートの注入モルタルの圧縮強度試験方法ほか
 - 3-5-4 新旧対応表 電気泳動によるコンクリート中の塩化物イオンの実効拡散係数試験方法
 - 3-5-5 新旧対応表 浸せきによるコンクリート中の塩化物イオンの見掛けの拡散係数試験方法
 - 3-5-6 新旧対応表 実構造物におけるコンクリート中の全塩化物イオン分布の測定方法
 - 3-6 目次新旧対応表 製品・施工機械等WG
 - 3-7 目次新旧対応表 補修・注入材等WG
 - 3-8 JIS A 5005(コンクリート用砕石及び砕砂)の改正に関する要望・意見のご提出について(依頼)
5. 議事
 - (1) 委員長挨拶および前回議事録の確認
橋本委員長から挨拶があり，引き続き前回議事録案の確認が行われ，異議なく承認された．前回議事録に関連して，以下のコメントがあった．
 - ・現在活動中のフライアッシュ有効活用研究小委員会では，新しい規準や規格は作らない予定である．
 - ・BS 破碎試験について，和訳をして関連規準として掲載することはできないので，必要であれば，来年度以降 BS 法をベースにして新しい土木学会規準として制定する．
 - (2) コンクリート常任委員会と示方書改訂小委員会からの報告
橋本委員長から，両委員会からの報告事項の説明があった．
 - ・(示方書改訂小委員会) 特になし．
 - ・(常任委員会) 土木学会では常置委員会はなくなり，すべて時限付き委員会となり，

成果によって継続の可否が審査される。

- ・(常任委員会) JIS A 5005 (コンクリート用砕石及び砕砂) の改正に関する要望・意見の提出が求められた(資料 3-8)。要望・意見のある場合は、10/6 までに鎌田幹事長まで送付する。集まった要望・意見は、10/12 の常任委員会で審議する。これに関連して以下の議論があった。

- － 地方によっては、密度や吸水率の規格値を緩めて欲しいという要望がある。
- － 海外では、規格値自体がないことがある。コンクリートとしての性能が満足されていればよいという考え方。
- － 土木学会としては、規格値を緩めることは提案しにくい。
- － 砕石粉の標準化の動きがある。
- － 再生骨材のような種別があってもよい。

(3) 各 WG からの活動報告

1) ホームページ WG

上野委員から、ホームページ更新のための準備はできている旨の報告があった。これについては早急に業者に更新を依頼することが了承された。規準編改訂版が発刊されたら、再度更新を行うことが確認された。

2) 樹脂系接着剤 WG

原田委員から、土木学会規準の原案は完成していて、現在はメーカー等からデータを収集している段階である旨の報告があり、準備が整い次第、委員会で審議することが確認された。

3) 補修材料 WG

江口委員から、土木学会規準 K の英訳が近々完了するので、年度内に出版する予定であり、今年度中にあと 2 回 WG を開催する予定である旨の報告があった。

(4) 規準編改訂に関する目次の新旧対応についての検討

1) セメント・骨材・混和材料 WG

上野委員より、目次の新旧対応表(資料 3-2-1)について説明があった。これに関連して、以下の議論があった。

- ・ JSCE-C 504-1993 について、関係者にヒアリングを行った結果、使用頻度は低いものの、重要な規準なので廃止しないで欲しいという回答であった(資料 3-2-2)。今回の改訂では内容を見直し改正されるので、本文を省略せずに掲載する。
- ・ JIS 規格において、同様の国際規格がある場合には、「JIS と対応する国際規格との対比表」が附属書となっているが、今回の改訂では、目次には載せるが本文は省略する。他の附属書についても同様に取り扱う。
- ・ 「コンクリートの乾燥湿潤試験方法(案)」(資料 3-2-3)について、前回委員会でダムコンクリート用ではとの意見があったが、ウェットスクリーニングをするので、一般的なコンクリートにも適用できる。セメント・骨材・混和材料 WG から、硬化コンクリートの関連規準として掲載することが提案され、了承された。

2) 鋼材・補強材 WG

椿委員より、目次の新旧対応表と本文の改訂要旨(資料 3-3)について説明があった。これに関連して、以下の議論があった。

- ・ 鋼材の受入れに関する JIS 規格として、最近では JIS G 0404 が使用されるので、これまで本文が省略されていたが、全文掲載に変更する。また、従来から使われている JIS G 0303 についてもまだ使われているので、従前どおり全文掲載する。
- ・ JIS 規格の E-49 と E-50 の附属書は、適用年限が切れているので、本文は省略とする。

3) フレッシュコンクリートWG

黒井委員より、目次の新旧対応表（資料 3-4-1）について説明があった。これに関連して、以下の議論があった。

- ・吹付けコンクリート関連の土木学会規準（F-27～32）を新たに掲載する。
- ・フレッシュコンクリートの温度測定方法（JIS A 1156）が新たに制定されたので、全文を掲載する。

4) 硬化コンクリートWG

久田委員より、これまでのWG活動報告（資料 3-5-1）があり、目次の新旧対応表（資料 3-5-2）について説明があった。これに関連して、以下の議論があった。

- ・EPMAと微量成分分析の土木学会規準を新たに掲載する。
- ・テストハンマに関するJIS規格が制定されているが、土木学会規準とは内容が大きく異なるので、両方とも掲載する。
- ・再生骨材のJISについて、種別Hは骨材の規格として、種別Lはコンクリート製品の規格として制定された。種別Mの規格化にはまだ時間がかかる。
- ・PCグラウト中の塩化物イオン量測定に関する規準がPC技術協会にあれば、その内容を橋本委員長が確認する。必要であれば、フレッシュコンクリートの関連規準として掲載する。
- ・非破壊試験法に関する規準が日本非破壊検査協会から出ているので、関連基準として掲載するかどうかWG内で検討する。規準類のリストについては、鎌田幹事長から久田委員に送られる。転載費用については、橋本委員長が確認する。

5) 製品・施工機械等WG

原田委員より、目次の新旧対応表と本文の改訂要旨（資料 3-6）について説明があった。これに関連して、以下の議論があった。

- ・3つの土木学会規準はいずれも内容の一部修正を行ったので、改正とする。
- ・JSCE H 101については、JSCE K 541を参考に、全面的に改訂する方向で検討している。
- ・再生骨材Lを用いたコンクリートのJISが制定されたので、新たに掲載する。附属書1については、重要な内容であるので、本文も掲載する。
- ・再生骨材に関するTRは、その役目を終えつつあるが、JIS化の過渡期であるので、今回の改訂までは本文も掲載する。

6) 補修・注入材等WG

江口委員より、目次の新旧対応表（資料 3-7）について説明があった。これに関連して、以下の議論があった。

- ・土木学会規準のうち、K-1とK-7は内容の見直しを行ったので改正とする。
- ・関連基準として、日本材料学会が出しているレジコンクリート構造設計指針を目次のみ掲載する。ただし、具体的な試験方法の名称を掲載する必要があるので、WGで調べる。
- ・JIS A 1171の本文は現在省略されているが、重要な内容であるので、今回の改訂では全文掲載に変更する。
- ・JIS A 1181～1186は統合されてJIS A 1181に一本化された。
- ・JIS Z（一般）の改訂動向についてまだ調べてないので、至急対応する。

7) 今後の作業

10/12の常任委員会に諮るため、目次の新旧対応表を各WG主査が作成し、10/6までに鎌田幹事長に送付する。鎌田幹事長は、内容を確認の上、橋本委員長と事務局に委員会資

料として 10/10 に送付する。新旧対応表の書式については、橋本委員長が作成担当者に送付する。

【目次の新旧対応表作成にあたっての注意事項】

- ・2007年版で2005年版から変更があった規準（見直しをして2007の年号が付いているものは全て該当する。ただし、単に2005年版における（案）が取れただけの規準については該当しない）については、新旧対応表の2007年版の部分の該当規準の行全体にアンダーラインを付すとともにフォントはゴシック体とする。
- ・2005年版で（案）の付いている規準について見直しにより（案）を取る基準について → 2003年以前（2003年を含む）の年号の付いているもので、特に内容の変更の無い場合は（案）は取る。
- ・軽微な修正を行った場合でも、見直しをしたという意味で、規準の年号を2007に変更し、さらに（案）を付ける。この「軽微な修正」の中には、JIS番号の修正も含む（今回は「数字のまるめ方」が主）。ただし、誤字・脱字、「てにおは」の修正などは除外する。

(5) その他

橋本委員長より、委員会予算について説明があった。今年度は規準編改定作業があるので、100万円の予算を150万円に増額するよう、橋本委員長から常任委員会にお願いすることとなった。

(6) 次回委員会

日時：平成18年12月1日(水) 15:00～18:00（委員会終了後、忘年会）

場所：土木学会（予定）

議事：土木学会規準の改訂案について

宿題：各WGにて規準本文の新旧対応表を作成・審議し、懸案事項を抽出しておく。

以上